



さくら便り

39号

令和5年2月

2月は令和4年度の締めの方に当たります。振り返ってみて「大したことしなかった」毎年の感想です。1月に信徒総代から北島の土地を、桜の伐採した枝を燃すために借りました。ただ燃すだけでは芸がありませんので、燃した灰を肥料にして畑を作ろうと思っています。夢は収穫した作物を、自治会の皆様にお分けすることです。しかし、いざスコップで掘り返すと、長年掘り返していない為、草の根が深くびっしりと這っています。これでは掘り起こすだけで1年ぐらいかかり、肥えた土壌にするには・・・と思うと気が遠くなります。腐らないで少しずつ前へ進めていきます。

(散歩の友) 岐阜市で名が通ったものを3つあげるとすると、鶺鴒い・柳ヶ瀬・岐阜城であると私は思っています。今は木村拓哉の信長が入るかもしれませんが。今回は岐阜城について書かせて戴きます。岐阜城は金華山(329m)上に築かれ、古くは井ノ口城・稲葉山城と呼ばれていました。南と北に木曾川(現在の河道よりも北側を流れていた)・長良川という天然の堀を持ち、三方を急峻な断崖で守られた日本有数の要害です。山頂に築かれたこともあって、眼下に長良川、西は伊吹山・養老連山、南は名古屋市街・伊勢湾、東は御岳山が望めます。山頂への道は11あると云いますが、主なものは瞑想の小径(水手道)、馬の背登山道、七曲登山道(大手道)、百曲り登山道、東坂登山道であります。古来は岐阜県歴史資料館の近くから登る七曲り登山道が大手道であり、山頂までは1.9Kmの距離があります。岐阜城の歴史は1201年(鎌倉期)二階堂行政が金華山に砦を築いたことが始まりです。1412年に土岐氏の守護代齋藤利永が修築して在城しました。1539年齋藤道三が再興して入城。1567年には美濃を手に入れた織田信長が入城しています。その後、織田信忠(信長の嫡男)、織田信孝(信長の三男)、池田元助・輝政、羽柴秀勝(秀吉の養子)と城主が変わり、最後は織田秀信(信長の嫡孫・三法師)が城主となりましたが、関ヶ原の戦いの前哨戦で、東軍(徳川家康側)によって落城させられました。その後は廃城となりました。岐阜城は何と云っても齋藤道三・織田信長とは切っても切れません。現在でも毎年4月の第一週の土・日にお祭り(道三祭り)があります。桜の季節には岐阜公園内・護国神社境内・長良川左岸の道路沿いの桜は見事です。尚、老婆心ですが、岐阜城まで歩いて登るときは、過信しないで、万全を期してお上りください。私は先年、軽い気持ちでビールを飲んだ後登ったのですが、滑落しそうになりましたから。

さくらの会